

# リーフレットの構成と活用 深い学びをもたらす授業デザインー学びの質の改善に向けてー

本リーフレットは、一人ひとりの教職員が自教科の日々の授業づくりに役立てると同時に、研修等の資料として効果的に活用していただくことを期待して作成しています。例えば、校内研修において各教科のリーフレットを比較し、「深い学び」をもたらす授業デザインの共通点を見いだしたり、各教科の特質を共有して各々の役割を確認しあったりするなど、学校全体で授業を通して生徒の資質・能力をどのように伸ばしていくかについて話し合う際の資料としても活用できます。

## I 単元を通して育成をめざす資質・能力

単元(題材)末に実現をめざす生徒の学び姿(「生徒は何かができるようになるのか」とともに、学習指導要領(平成 30 年告示)の指導項目や指導事項との関連を明確にしました。「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱については、学習指導要領(平成 30 年告示)解説も参考にして作成しています。

「深い学びをもたらす授業デザイン」

### 高等学校 国語科

#### 表

国語総合(1年) 単元名:「相手に応じた理由や根拠を選択しよう」

府立北かわち皇が丘高等学校 授業者 指導教諭 浅野 大樹

#### I 単元を通して育成をめざす資質・能力

【めざす生徒の学び姿】  
犬(猫)が好きな理由について、主張を支える理由や根拠を読み手に合わせて選んだり、表現を工夫したりしながら、読み手から納得や共感を得るような自分らのよりよい文章を書くことができる

【学習指導要領(平成 30 年告示)との関連】  
「現代の国語」(知識及び技能)(1)オ、(思考力、判断力、表現力等)B書くこと(1)ウ

【本単元における言語活動】  
「現代の国語」(思考力、判断力、表現力等)B書くこと(2)アイ

知識及び技能	効果的に自分の考えが読み手に伝わる文章構成や言葉の使い方について理解することができる。
思考力、判断力、表現力等	自分の考えや事情が読み手から納得や共感を得られるよう、根拠の示し方や文章の構成を工夫して書くことができる。【書「能力」】
学びに向かう力、人間性等	自分の考えや事情が読み手から納得や共感を得られるよう、根拠の示し方や文章の構成を工夫して書くことができる。

#### II 単元計画(資質・能力育成のプロセス) 全3時間

時	めざす生徒の姿	学習活動・学習内容	教師の支援・指導 (★深い学びを生み出す工夫)
1	「読み手が納得や共感できる理由や根拠とは？」	○主張を支える理由や根拠を複数挙げる活動 ・文章の論理構造(総括型【主張-理由-根拠-主張】)について理解する。 ・「読み手から納得や共感を得るための理由や根拠を選択し、工夫して文章を書くことができる」という目標を提示し、まず犬(または猫)のいずれかを選び、それが好きな理由を10個書く。 ・書き出した理由を縦に総括型で文章を書く。 ・書き出した文章の中から数名の生徒が発表し、それぞれの違いを考える。	○主張と理由の関係を整理するために、中学校で学習した総括型を示し、今回書く文章の概要を確認させる。 <b>読み手から納得や共感を得るためにはどのような理由や根拠が必要だろう</b> ○生徒が書いた実際の文章からより相手から納得や共感を得るために必要な要素について主体的に気付かせる。 ★周りの生徒の文章を確認させ、理由の中に納得や共感できるものがないものがあることを確認し、より相手に自分の考えを伝えるために必要な要素について考えさせる。

#### III 深い学びを実現するための指導の工夫

- ◆目標を理解し、見通しをもたせる(第1時)  
「犬(猫)が好きな理由を読み手に応じて工夫して書く」という身近な課題を設定し、生徒に「できそう」という見通しをもたせる。また「読み手から納得や共感を得るための理由や根拠を選択し、工夫して文章を書く」という目標を生徒と共有し、単元全体の見通しをもたせる。第1時では、中学校で学んだ総括型を活用し、既有的な知識を再認識させて文章を書かせる。
- ◆気付きを促し、よりよく書くことにつなげる(第2時)  
「読み手から納得や共感を得る理由や根拠」に必要な要素に気付かせる活動となる。ここでは一方的にその要素を伝えるのではなく、生徒の記述を全体共有して比較し合うことで「一般性」「独自性」の二面性に気付かせ、裏感を伴う理解をめざす。この活動によって、第1時であげた10個の理由の捉え方が生徒の中で大きく変化することになる。単元の目標に大きく迫る裏となる時間である。
- ◆言葉に対して自覚的に向き合いながら学びを実感する(第3時)  
「初対面の人」「友人」という具体的な読み手を設定したことで、生徒は自分が理由や根拠によって選んだ言葉が読み手に与える印象や意味を捉え直しながら、再び文章を書く活動に向かう。その際、なぜその理由を選択したのかを記載させることで、読み手への主張や読み手と自分との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、生徒が自覚しながら言葉を選んでいくようにする。また、単元末にこの学習で身に付いたことを文章で整理し、生徒自身が学びの手応えを自覚的につなげることができるようにする。

## II 単元計画(資質・能力育成のプロセス)

単元(題材)の流れを簡潔に示しています。「めざす生徒の姿」には、内容のまとめりとともに終了時に現れて欲しい(期待する)言葉やつづき、行動等を示しています。「教師の支援・指導」には、「めざす生徒の姿」の実現に向けて行われた教師の働きかけや仕掛け(教材・教具、説明、指示、発問、学習形態等)について示しています。また、生徒の学びの深まりを促進する仕掛けや工夫には★印を付し、下線を引いています。★印の中から、特に深い学びをもたらす、単元(題材)を通して育成をめざす資質・能力の育成につながる箇所を「ポイント」としています。

## III 深い学びを実現するための指導の工夫

本単元(題材)における教師の指導の工夫やポイント等、着目しておきたいことを解説しています。「I 単元(題材)を通して育成をめざす資質・能力」の「めざす生徒の学び姿」や「II 単元計画(資質・能力育成プロセス)」の「めざす生徒の姿」の実現に向けて、何がどのように作用するのか、「生徒の学びやその学びを生み出す要因」を考える際のヒントになります。

#### IV 生徒はどのような学びを実現したか

本単元における生徒の変容や思考の深まりについて、生徒の発話やワークシートの記述等を詳しく紹介し、生徒の学びに着目して分析しています。生徒が各教科等の「見方・考え方」を使いこなしながら、「深い学び」に至るプロセスや生徒が成長していく様子と、それを実現するための要因と考えられる主な教師の関わり等を解説しています。

「ポイント」では、「Ⅱ 単元計画(資質・能力育成プロセス)」で「ポイント」として示した授業場面の生徒と教師のやりとり、生徒の発話などの詳細を掲載しています。

「**授業者はココを見る!**」では、教師が「ポイント」の授業場で、「Ⅰ 単元(題材)」を通して育成をめざす資質・能力の「めざす生徒の学ぶ姿」の実現に向けて、授業中や授業終了時にどのような点に留意して生徒の学習状況を把握し、指導の改善に生かしたのかを簡潔に示しています。

#### \*コラム【学習評価の充実に向けて】\*

「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(平成31年1月21日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会)や「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」(平成31年3月29日付初等中等教育局長通知)では、学習評価については、日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場を精選することが重要であることが示されました。

観点別の生徒の学習状況について適切に把握するためには、評価する時期や場を精選し、「指導と評価の計画」に具体的に設定しておくことが欠かせません。「**授業者はココを見る!**」で切り取った場面や教師のまなざしは大きなヒントとなります。

#### IV 生徒はどのような学びを実現したか

○読み手や自分の主張に合わせて言葉を見つめなおし、その価値を考えながら追究しようとする生徒

本実践では、想定した読み手(初対面の人)と(友人)に合わせて適切に進んだり、伝わり方を考えていたりして、書くことを目的とした。単元を学ぶ前において、生徒は主張や考えをより伝えるために理由や根拠は理解しているものの、読み手に合わせた理由や根拠の選択や示し方についてまで意識が及んでいない。しかし、写真を見て気付きを書き、その内容の一般性と独自性について整理をすると、生徒の思考が一気にアクティブとなり、第3時に再度、文章を書く際には、生徒は自身が挙げた理由や根拠に対する見方が変わり、**言葉に対する自覚的な意識**が芽生えていた。一連の活動により、複数の理由や根拠を見つめ直し、どの理由を何のためにどうやって文章に活用するかを考えながら選択することができ、生徒一人ひとりが読み手にどう感じてもらいたいのか「明確」になった文章が多く見られた。

裏

#### ポイント②

#### 第3時

☆**気持ちを活かし、言葉のもつ意味と価値を捉え直す!**

##### 第1時の記述

**大さきさん**の理由

- ①一緒に散歩ができる
- ②楽しい気性の子が多い
- ③面白い一連なところ

→ 一緒に散歩したいところ

##### 第3時の記述…「一般性」「独自性」を踏まえて【友人に向けて】

①しゃべりがわかる  
②歩き方がばてばてしている  
③感情がわかりやすい

→ 共通して伝えなくても通感なく話せるから。

##### 第2時の記述

**日さきさん**の理由

- ①そつがないところ
- ②歩き方がわかる
- ③鳴き声かわかり

→ 互いを知りあえて楽しい会話ができそうだから。

##### 【初対面の人に向けて】

①話を覚えてくれるところ  
②一緒に散歩ができること  
③面白い一連なところ

→ 丁寧に説明した方がわかりやすいから。

#### V 実践を終えて

#### 授業者より

生徒たちに今後、自分の考えを的確な言葉で表現できることはもちろん、読み手に自分の文章からこんなことを感じて欲しい、考えて欲しいといった明確な意図をもった文章を書いてほしい。だからその年齢に見通して計画的かつ系統的な指導が必要となる。今回は、理由や根拠を読み手や目的に応じて選択する活動を通して、はじめはテーマに合致した文章を書くだけだった生徒が、読み手にこんなことを感じて欲しいといった具体的な意図をもた、文章と向き合うようになった。一方で文章全体の構成や表現の工夫等についてはまだ課題が残る結果となった。今回の学習において、生徒一人ひとりの推察力を高め、文章表現能力の向上に資するものであったと感じる。本実践を踏まえて、今後は読み手の感じ方や読み手の理解する過程を意識した、論理の展開ができるような「書く能力」の育成に向け指導にもつなげていきたい。

☆**年間の「書く能力」の指導の流れ(イメージ)**

読み手に的確に自分の意図を伝える文章を書く

→

読み手の共感や納得を得るための文章を書く

→

文章構成や情報の並び順序等を内視して書く

#### V 実践を終えて

本単元(題材)に至るまでの着想や構想、指導の工夫とともに、授業実践後の分析(成果と課題)、そして今後の展望(改善策)等について、授業者自身による考察を簡潔にまとめています。教師が「生徒たちにどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る、いわゆる「指導と評価の一体化」が体现されています。